

なりあいでら なりあいがわ 成相寺と成相川

所在地：南あわじ市 八木馬廻



成相寺



成相寺 大門



境内のイブキ

成相寺は成相川の渓谷にある古刹で、淡路島に流された高野山の実弘上人が、高野山を模して仁治4年（1243）に建立したと伝えられています。島内で、唯一大門が現存している社寺であり、大門が本堂より高い位置にあることから、かつては大きな寺であったことがうかがえます。

成相寺には、実弘上人の祈願で大蛇の化身が大岩を砕き、村を水害から救った伝説があり、川辺には大蛇が腹で削り取ったと伝えられる「蛇磨（じゃすり）岩」があります。また、境内のイブキは樹齢300年を越えると推定され、市の天然記念物に指定されています。

成相川は、県下でも数少ない源氏ボタルの生息地で、ホタルの乱舞は初夏の風物詩となっています。境内周辺は自然環境保全地域に指定され、自然が豊かで静寂な渓谷の環境を現在も残しています。

- 【景観の特徴】
- ✓ 自然が作り出す景観
 - ✓ 歴史が作り出す景観
 - 生活・文化が作り出す景観
 - 新しく作り出す景観

【アクセス】

神戸淡路鳴門自動車道洲本 IC から国道 28 号を南下し、鳥居交差点を左へ。車で約 30 分。



地図出典：国土地理院発行 2万5千分の1地形図